



会津坂下町

防災マップ

安全で安心なまちづくり

索引

町民の皆様へ・避難行動ガイド①	1	会津坂下町全図	13・14
避難行動ガイド②	2	詳細図No.1	15・16
特別警報をご存知ですか?	3	詳細図No.2	17・18
風水害情報について	4	詳細図No.3	19・20
土砂ハザード情報について	5	詳細図No.4	21・22
洪水ハザード情報について	6	詳細図No.5	23・24
地震対策について・火災対策について	7	詳細図No.6	25・26
磐梯山に関する火山情報について	8・9	詳細図No.7	27・28
防災対策・非常時持出品	10	詳細図No.8	29・30
ライフライン・救急病院・行政機関連絡先一覧	11	詳細図No.9	31・32
避難場所・避難所・AED設置一覧	12	詳細図No.10	33・34

町民の皆様へ

“豊かな自然とともに安全・安心な「ばんげ」をめざして”

近年、世界規模で自然災害が多く発生しており、日本国内において大規模な地震や大型台風、集中豪雨などによる洪水、土砂災害が発生し、各地で甚大な被害がでています。

このような災害から身を守るためには、日頃から住民一人ひとりが防災の意識を高く持っていただくことが大切であり、災害時に備え避難方法などの対策を考えておく必要があります。

地域防災は、

- 自助…「自らの命は自ら守る」
- 共助…「近隣の方がお互いに助け合って地域を守る」
- 公助…「行政が総合的な防災対策に取り組む」

が基本であり、なかでも災害発生直後は、防災関係機関はもちろんのこと、住民の皆さんの主体的な行動が重要です。

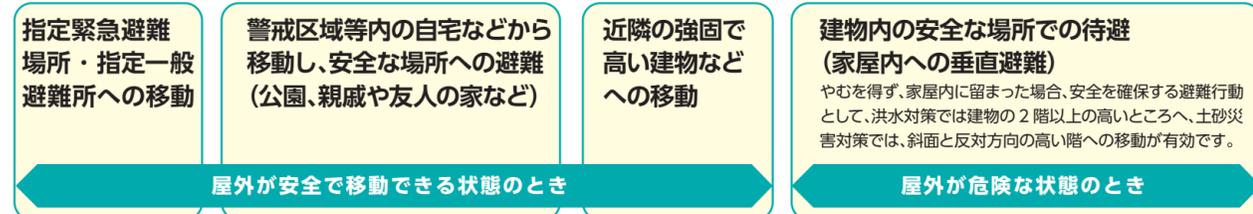
ぜひ、ご家庭の目に届くところに常備していただき、家族や地域での災害対策に役立てていただきますようお願い申し上げます。

令和5年2月
会津坂下町

避難行動ガイド①

避難とは・・・

避難は、災害から命を守るための行動であり、避難行動には次のような方法があります。



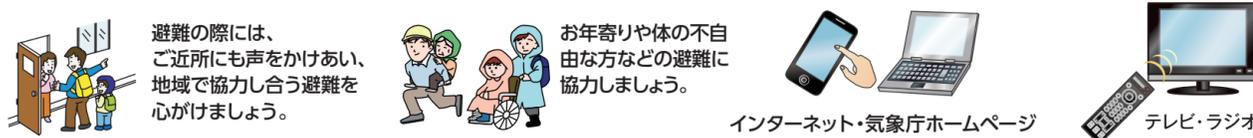
避難行動に関する行政発令の種類と、住民の皆さまの対応

避難指示などは、災害の種類ごとに避難行動が必要な地域を示して発令しますが、地域やご家庭などの事情によって、「避難指示」を待たずに避難が必要と考えられる場合は、「**自主避難**」をお願いします。

区分	立退き避難など住民の皆さまの行動
高齢者等避難	<ul style="list-style-type: none"> ・気象情報に注意を払い、立退き避難の必要について考える。 ・立退き避難が必要と判断する場合は、その準備と立退き避難をする。 ・要配慮者(障がい者や高齢者で避難行動が困難な人)は、この段階で立退き避難をする。
避難指示	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時持ち出し品をもって、立退き避難をする。 ・立退き避難することが、かえって危険と判断される場合は、屋内で安全を確保する。
緊急安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・既に災害が発生している状況であり、命を守るための最善の行動をとる。 ・村が災害発生を把握していない場合もあり、必ず発令されるものではないことに留意する。

※「**自主避難**」とは、避難指示などを待たず、自主的に地区集会所、親戚や友人の家などの安全な場所へ避難することです。その際は、出来るだけ必要な食糧、飲物、日用品などを持参するようにしてください。

※雨が降り続いているら、テレビ・ラジオ・スマートフォン・パソコンなどで最新の気象情報を入手しましょう。特に、河川氾濫の浸水想定区域や土砂災害警戒区域にお住まいの方は、自分で早めに判断し、「危ない」と思ったら、直ちに危険な区域から離れる行動(**自主避難**)することが命を守ることになります。



避難行動ガイド②

住民の皆さまが、「自らの命は自らが守る」という意識のもと、自主的な避難を行うために、気象庁及び県では防災気象情報を提供し町では避難情報を5段階の警戒レベルにより発令します。日頃からいざという時に備えて、災害時の取るべき行動の確認をお願いします。



それぞれの**警戒レベル**に相当する情報を、**早めの避難行動の判断**に役立ててください。町からの**避難指示等の発令に留意**するとともに、避難指示等が発令されていなくとも**自ら避難の判断**をしてください。警戒レベル5の状況では災害が発生して避難できなくなることから、**警戒レベル3や4の段階で避難することが重要**です。

各種災害について、町が発令する避難情報を5段階に整理しました。

警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	行動を促す情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1
<警戒レベル4までに必ず避難!>			
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報(気象庁)
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報(気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない

※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである

Q&A

質問1) 防災気象情報は出てるけど、避難情報が出ていないときはどうすればいいの?
⇒町は、様々な情報をもとに、避難情報を発令する判断を行うことから、必ずしも防災気象情報と同じレベルの避難情報が、同時に発令されるわけではありません。**自らの命は自ら守る意識を持って、防災気象情報も参考にしながら、適切な避難行動をとってください。**

質問2) 洪水で「警戒レベル4相当情報」が既に出ているなかで、土砂災害で「警戒レベル3相当情報」が出たけど洪水のレベルも4から3に下がったということなの?
⇒洪水の危険性が4から3に下がったわけではありません。洪水は4のまま、土砂災害の3が追加されたものであり、**その地域は洪水と土砂災害、両方の災害を警戒する必要があります。**

【警戒レベル5】では既に災害が発生しています。
【警戒レベル3】や【警戒レベル4】で、地域の皆さんで声をかけあって、安全・確実に避難しましょう。

特別警報 をご存知ですか？

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする警報です。普段からの備えと早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

特別警報の発表基準

現象の種類	基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合	
暴風	暴風が吹くと予想される場合	
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	高潮になると予想される場合
波浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

表中の”数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

地震警報などを特別警報に位置づけます

現象の種類	基準
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合(緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合(噴火警報(居住地域)*を特別警報に位置づける)
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)

(*) 噴火警戒レベルを運用している火山では「噴火警報(居住地域)」「噴火警戒レベル4または5」を、噴火警戒レベルを運用していない火山では「噴火警報(居住地域)」「キーワード:居住地域嚴重警戒」を特別警報に位置づけています。

特別警報が発表されたら

- ・尋常でない大雨や暴風等が予想されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

命を守るために情報の収集に努めてください

特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



- ・「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
- ・これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
- ・普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

※気象庁HPより一部を抜粋して掲載

「特別警報」については、気象庁HPに詳細が掲載されていますので、ご確認ください。

気象庁 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4
 電話: 03-3212-8341 FAX: 03-6689-2917 (耳の不自由な方向向け)
 気象庁ホームページ <https://www.jma.go.jp>
 特別警報について <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/tokubetsu-keiho/>

風水害情報について

大雨や強風は、わたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨注意報・警報の発表基準

大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予測される場合
 ・表面雨量指数(注1)7
 ・土壌雨量指数(注2)81

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合
 (浸水害)表面雨量指数11 (土砂災害)土壌雨量指数127
記録的短時間大雨情報 1時間に雨量100mm

雨の強さと降り方

予報用語	1時間雨量(mm)	人の受けるイメージ	人への影響	屋内(木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
やや強い雨	10以上20未満	ザーザーと降る。	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。	雨の音で話し声が良く聞き取れない。	地面一面に水たまりができる。	—
強い雨	20以上30未満	どしゃ降り。	傘をさしてもぬれる。			ワイパーを速くしても見づらい。
激しい雨	30以上50未満	バケツをひっくり返したように降る。		寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。	道路が川のようなになる。	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる。(ハイドロプレーニング現象)
非常に激しい雨	50以上80未満	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる。		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	車の運転は危険。
猛烈な雨	80以上	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。				

風の強さと吹き方

予報用語	平均風速(m/s)	おおよその時速	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	おおよその瞬間風速(m/s)
やや強い風	10以上15未満	~50km	一般道路の自動車	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	樋(とい)が揺れ始める。	20
強い風	15以上20未満	~70km		風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。看板やタン板が外れ始める。	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。	30
非常に強い風	20以上25未満	~90km	高速道路の自動車	何かにつかまっていられないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。	通常で速度で運転するのが困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。	40
	25以上30未満	~110km					固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設場が崩落する。	40
猛烈な風	30以上35未満	~125km					外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。	50
	35以上40未満	~140km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。電柱や街灯が倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。	走行中のトラックが横転する。	住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。	60
	40以上	140km~						60

台風の大きさと強さ

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s(64ノット)以上44m/s(85ノット)未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s(85ノット)以上54m/s(105ノット)未満
		猛烈な	54m/s(105ノット)以上

台風時によく耳にする言葉が「hPa(ヘクトパスカル)」ですが、hPaは台風の中心気圧を見るもので、数値が低い方が勢力が大きくなります。(ページ内の図表は気象庁ホームページより抜粋、編集) 参考:令和元年東日本台風は915hPaでした。

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して多量の雨が降ることで、「ゲリラ豪雨」とも言われています。発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

注1 表面雨量指数: 短時間の強い雨による浸水害の危険度の高まりを把握するための指数。降った雨が地中にしみ込まず、地表面にどだけ溜まっているかを指数化したもの。
 注2 土壌雨量指数: 大雨による土砂災害の危険度の高まりを把握するための指数。降った雨が土壌中にどだけ溜まっているかを指数化したもの。



土砂ハザード情報について

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難してください。日ごろから危険箇所・避難場所、避難経路を確認しておくことも重要です。

土砂災害の種類

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨警戒(土砂災害)が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに、市町村長の避難指示等の判断を支援するよう、また、住民の自主避難の参考となるよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。

土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、特に早めの避難が重要です。会津坂下町からの避難に関する情報に留意するとともに、土砂災害警戒情報を自主避難の参考にしてください。土砂災害警戒情報が発表されたときは、対象市町村内で土砂災害発生の危険度が高まっている領域を土砂災害警戒判定メッシュ情報(気象庁HP)でご確認ください。周囲の状況や雨の降り方にも注意し、危険を感じたらためらうことなく自主避難をお願いします。

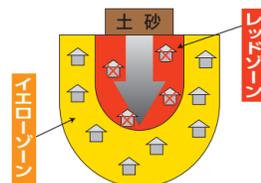
尚、詳細図に掲載している土砂災害警戒区域等の指定箇所は令和4年8月現在のものです。

危険箇所内の重要性の高い箇所について

土砂災害防止法に基づき、福島県が計画的に基礎調査を実施し、危険箇所内の重要性の高い箇所について、「土砂災害特別警戒区域」と「土砂災害警戒区域」の指定及び見直しが行われています。

土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン) 建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがある区域

土砂災害 警戒区域(イエローゾーン) 住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがある区域



洪水ハザード情報について

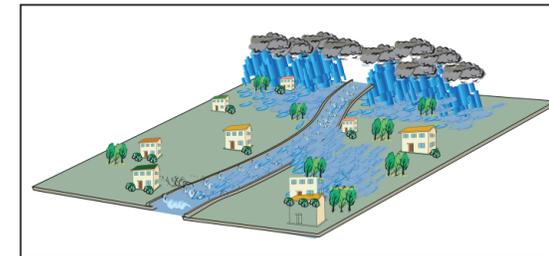
阿賀川・宮川で浸水域の公表がありました。以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

1 氾濫の種類

●雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、排水が間に合わず、排水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

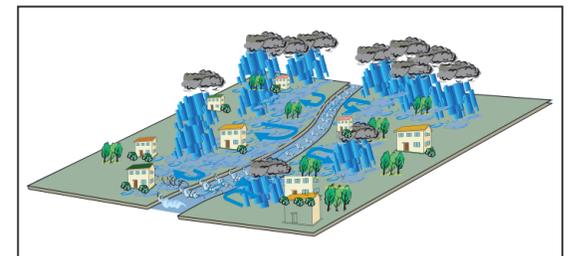
外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増します。最大の水かさが必要。



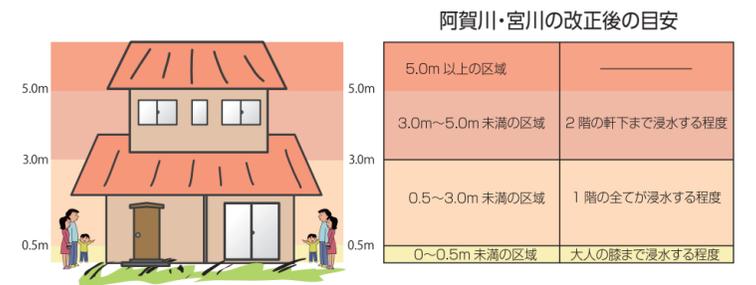
内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



2 説明(外水氾濫)

- この「マップ」で使用している洪水ハザード情報は、阿賀川・宮川が、大雨によって氾濫した場合、洪水が想定される区域とその浸水の深さを示したものです。
- 雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水深となったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水することがあります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合があります。十分注意しましょう。



3 洪水情報の種類

洪水の危険性が高まった際に発表される情報

洪水注意報(気象庁)

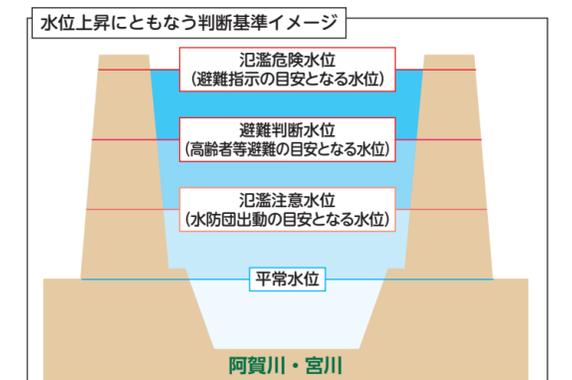
●洪水によって災害がおこるおそれがある場合、その旨を注意して行う予報。

洪水警報(気象庁)

●洪水によって重大な災害がおこるおそれがある場合、その旨を警告して行う予報。

指定河川洪水予報など

●阿賀川・宮川については、福島地方気象台が予測する降水量をもとに、河川を管理する福島県が河川水位の危険度を予測し、共同発表します。



地震対策について 地震発生!そんなときどうする

地震発生

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

とにかく自分の身を守ろう!

●地震だ!まず身の安全

大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、まず身を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。

しっかり火の始末で、火災防止!

●大揺れがおさまった

台所やストーブなど火の始末をしましょう。避難の時は、電気のブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉めましょう。

わが家の安全の確認、確保!

●火の始末のあと

家族の身の安全を確認、確保し、災害情報、避難情報を入手しましょう。また、避難可能な出口も確保しましょう。

隣近所の安否確認、助け合い!

●外に出たあと

家の家具の下敷きになった人の救出や、消火活動を隣近所で協力して行いましょう。

2、3日は自分でしのぐ!

●避難後、数日間

地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気などの供給が途絶えます。この間、日頃から、生活必需品(非常用品)を準備し、自分でしのげるようにしておきましょう。

2~5分

5~10分

10分~半日

半日~3日



火災対策について 火災発生!そんなときどうする

初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければフライパンなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな出火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。



2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。



3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを開けて空気を絶つ。



設置義務化 火災警報器の

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。

火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

火災警報器の設置場所

- 寝 室…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階 段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台 所…台所については、設置をおすすめします。

注意: 住宅用火災警報器は電池式のもの主流です。電池の寿命は5年から10年とされていますので、早めの交換をお願いします。警報器の音を事前に確認することも重要です。



火災警報器



住宅内取付位置図

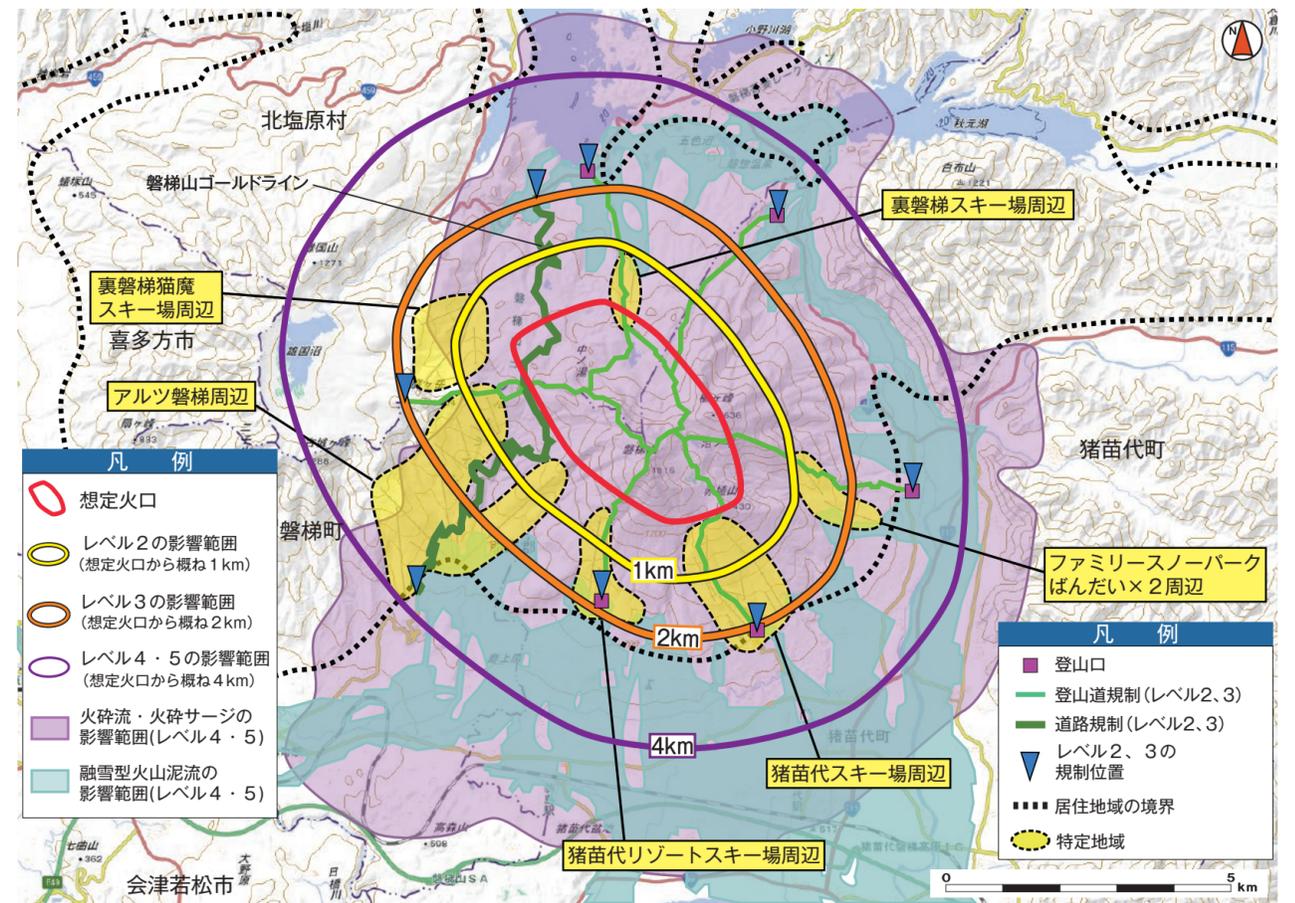
磐梯山の噴火警戒レベル 一火山災害から身を守るために一

- 噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。
- 各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています(レベル5は「避難」、レベル4は「高齢者等避難」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」)。
- 磐梯山の噴火警戒レベルは、噴火警報等でお伝えします。



磐梯山を北側上空から撮影

■磐梯山 噴火警戒レベルと規制範囲



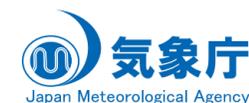
この図は、国土地理院「地理院地図」を使用して作成しています。

※図中の特定地域とは、居住地域よりも磐梯山の想定火口に近い所に位置する集客施設が含まれる地域を指します。居住地域より早期に避難等の対応が必要になることがあります。

※火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流の影響範囲は、「磐梯山火山噴火緊急減災対策防計画」(平成28年3月)に基づき作成しています。

※火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流の影響範囲は、火砕流・火砕サージが想定火口範囲の12地点から流れ、融雪型火山泥流が発生した場合の想定範囲を全て重ねたものです。1回の噴火で全ての範囲に影響するわけではありません。

■磐梯山の噴火警戒レベルは、磐梯山火山防災協議会において協議、作成されました。各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については、猪苗代町、北塩原村、磐梯町、会津若松市、喜多方市、湯川村、会津坂下町にお問い合わせください。



仙台管区気象台 地域火山監視・警報センター
TEL: 022-297-8164 <https://www.jma-net.go.jp/sendai/>
福島地方気象台
TEL: 024-534-2162 <https://www.jma-net.go.jp/fukushima/>
磐梯山火山防災協議会事務局: 福島県
TEL: 024-521-7194 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/>

出典: 気象庁ホームページ
(磐梯山の噴火警戒レベル https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/level/PDF/level_215.pdf)

磐梯山の噴火警戒レベル

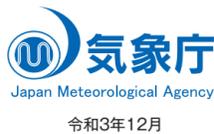


平成21年3月31日運用開始
令和元年9月25日改定

種別	名称	対象範囲	レベル(キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報(居住地域)又は噴火警報	居住地域及びそれより火山口側	5(避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●火山口から概ね4km以内の居住地域に大きな噴石が飛散するような噴火が発生、あるいは切迫している。 ●火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流が居住地域に到達、あるいは切迫している。 過去事例 1888年7月15日の噴火
			4(高齢者等避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者及び特定地域の避難、住民の避難の準備等が必要。	●火山口から概ね4km以内の居住地域に大きな噴石が飛散するような噴火の可能性。 ●火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流が居住地域に影響を及ぼす噴火の可能性。 過去事例 有史以降の事例なし
警報	噴火警報(火山口周辺)又は火山口周辺警報	火山口から居住地域近くまで	3(入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。登山禁止・入山規制など危険な地域への立入規制等。状況に応じて特定地域の避難、高齢者等の要配慮者の避難の準備等が必要。	●火山口から概ね2km以内に大きな噴石が飛散、火砕流・火砕サージが流下するような噴火の発生、またはその可能性。 ●火山口から居住地域近くまで、融雪型火山泥流が到達、またはその可能性。 過去事例 有史以降の事例なし
			2(火山口周辺規制)	火山口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火山口周辺への立入規制等。状況に応じて特定地域の避難等が必要。	●火山口から概ね1km以内に大きな噴石が飛散するような噴火の発生、またはその可能性。 過去事例 2000年8月15日:日別地震回数476回、有感地震発生、GNSSによる地殻変動に若干の変化、入山規制、磐梯山ゴールドライン規制
予報	噴火予報	火山口内等	1(活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火山口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて火山口内への立入規制、特定地域の避難準備等が必要。	●火山活動は静穏。 ●状況により火山口内に影響する程度の火山灰や火山ガス等の噴出。

※特定地域とは、居住地域よりも磐梯山の想定火山口に近い所に位置する集客施設が含まれる地域を指す。居住地域より早期に避難等の対応が必要になることがある。
※融雪型火山泥流は積雪期のみ想定される。

■各レベルにおける具体的な規制範囲等については各市町村の地域防災計画等で定められています。
■最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧いただけます。
<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>



令和3年12月

防災対策・非常時持出品

家の中の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

1 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



2 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



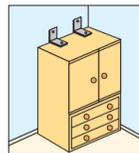
3 家具の転倒等を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



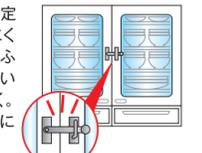
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように連結しておく。



食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



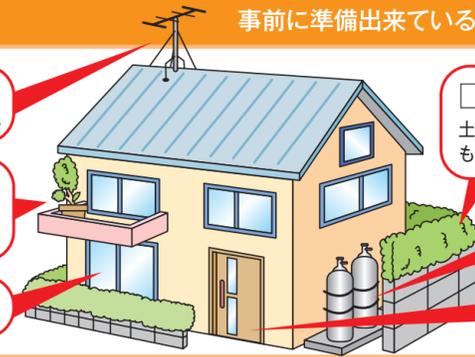
家の周囲の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

屋根 不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

ベランダ 植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

窓ガラス 飛散防止フィルムをはる。



ブロック塀・門柱 土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

プロパンガス ボンベを鎖で固定しておく。

非常口の確保

非常時持出品(例)

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

携帯ラジオ



ラジオ 電池(多めに用意)

懐中電灯



懐中電灯(出来れば一人にひとつ) 電池(多めに用意)

貴重品



現金 印鑑 健康保険証 預貯金通帳 免許証 権利証書

救急医療品



常備薬 傷薬 風邪薬 鎮痛剤 絆創膏 包帯 胃腸薬

非常食品等



非常用食品 ミネラルウォーター 離乳食 粉ミルク

その他



衣類(下着・上着など) 生理用品 缶切り 紙皿 水筒 マスク ウェットティッシュ ヘルメット 防災マップ(本書) タオル 紙おむつ 栓抜き 体温計 紙コップ カップ ライター ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う) 消毒液

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(2~3日)を生活できるようにチェック✓しましょう。

飲料水



飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)又は貯水した防災タンクなど

非常食品



お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利) 缶詰・レトルト食品 梅干し・調味料など ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



卓上コンロ ガスボンベ 固形燃料

その他



生活用水(風呂・洗濯機などに貯水) 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど 調理器具(なべ・やかんなど) バケツ・各種アウトドア用品など

避難場所・避難所とは？



避難場所

災害発生後の一時避難場所として、学校のグラウンド・公園・公共施設などを指定しています。

避難所

災害による家屋の倒壊などで、居住場所を確保できなかった人たちの収容保護を目的として、物資の運搬・集積・炊事・宿泊などの利便性を考慮したうえで、学校・公民館・公共建築物などを指定しています。

避難が必要になったときにはまず「避難場所」へ、その後は「避難所」へと状況に応じて速やかに行動出来るように心がけましょう！

AEDとは？ AED(自動体外式除細動器)



※このマークが設置の印です
JIS Z 8210 AED

突然心肺停止状態に陥ったとき、心臓に電気ショックを与えて、正常な状態へ戻す、誰にでも簡単に取り扱える医療機器です。機器によって多少の操作方法の違いはありますが、AEDから音声によって操作・作業案内が流れますので、その指示にそって取扱いが可能です。

こんなときにAED!

●意識がない ●息・せき・体の動きがない など。

避難所以外でも設置している場合も多く、日常生活圏内の「AED」設置場所も確認しておきましょう！

ライフライン・救急病院・行政機関連絡先

ライフライン関連機関

名称	電話番号	その他の情報
東北電力(株)	0120-175-366	東北電力コールセンター (停電・緊急時の御問い合わせ先)
NTT東日本	0120-019000	お客様相談センター
会津坂下町役場上下水道班	0242-84-1531	

救急病院

名称	電話番号	その他の情報
福島県厚生農業協同組合連合会 坂下厚生総合病院	0242-83-3511	

行政関係機関

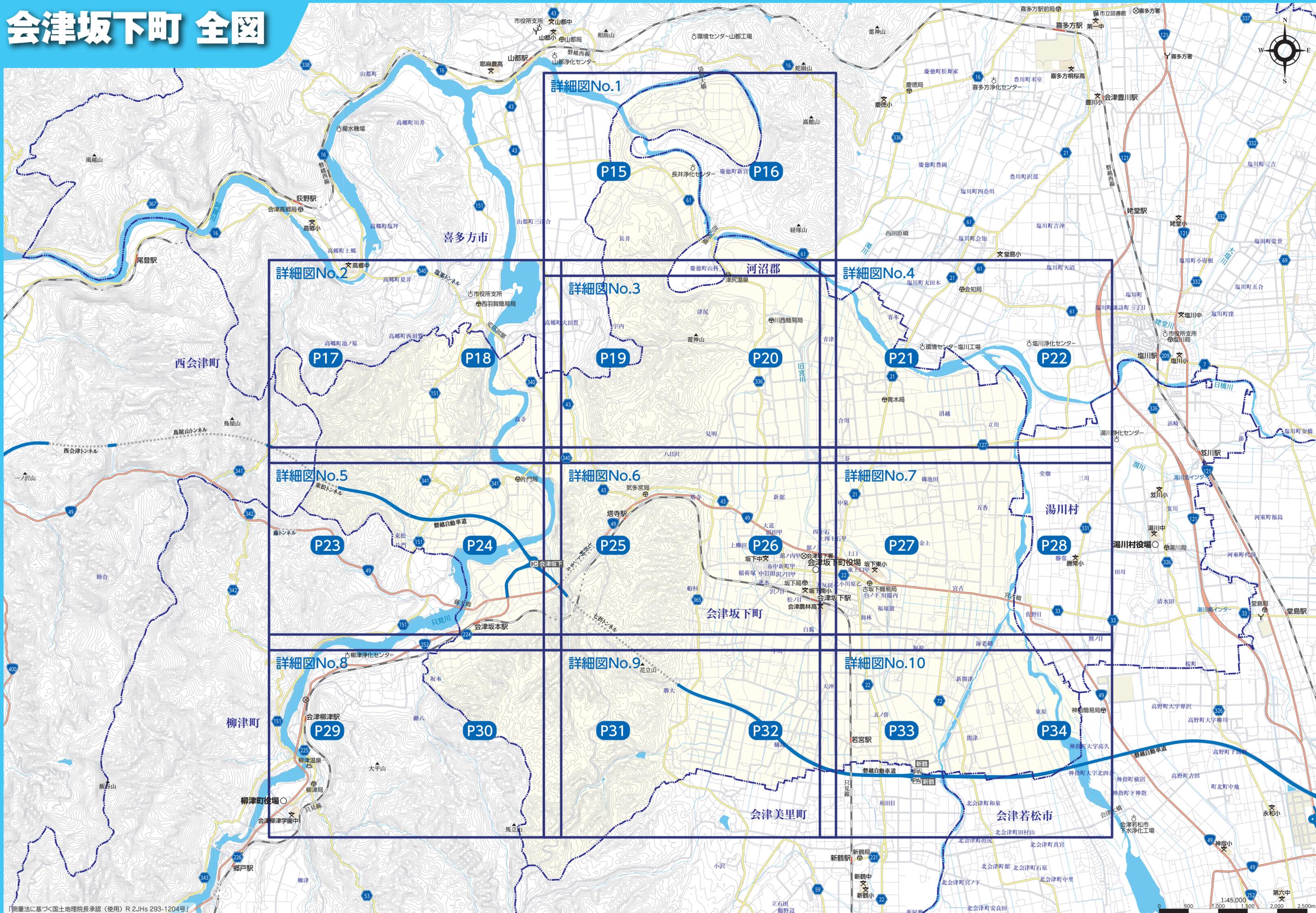
名称	電話番号	その他の情報
会津坂下町役場(代表)	0242-84-1503	
会津坂下町役場 危機管理班	0242-84-1533	
会津坂下消防署	0242-84-2119	
会津坂下警察署	0242-83-3451	
福島県 会津地方振興局	0242-29-5295	
福島県 会津若松建設事務所	0242-29-5337	
国土交通省北陸地方整備局 阿賀川河川事務所	0242-26-6871	
国土交通省東北地方整備局 郡山国道事務所	024-946-8164	

避難場所・避難所・AED設置 一覧

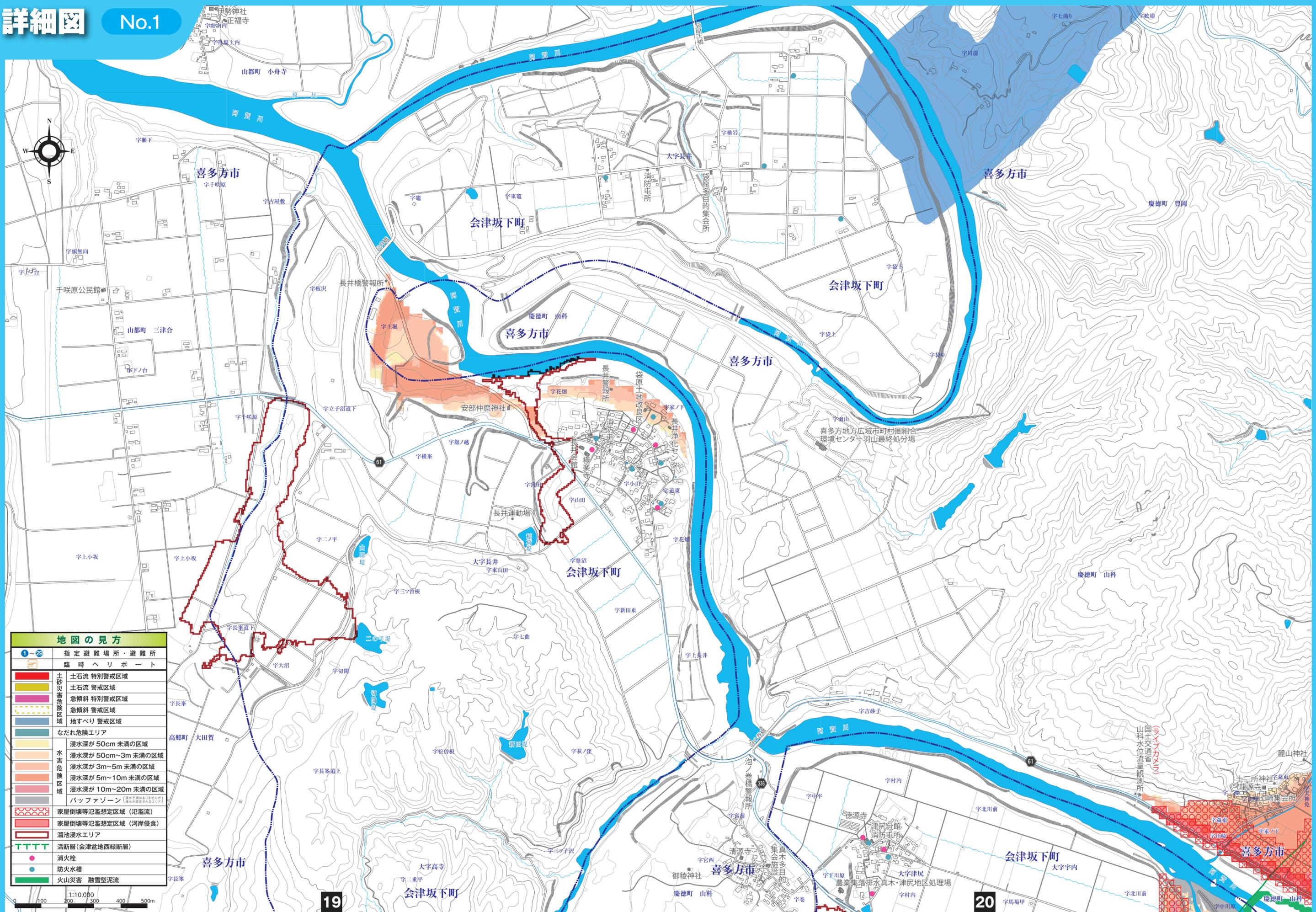
名称

No.	名称	所在地	掲載頁	避難場所	対応災害区分			避難所	AED	備考
					地震	洪水 内水	土砂 災害			
1	坂下南小学校	会津坂下町字石田甲650番地	26	●	○	×	○	●	○	避難場所はグラウンド 避難所は施設内
2	坂下東小学校	会津坂下町字上口705番地	27	●	○	×	○	●	○	避難場所はグラウンド 避難所は施設内
3	坂下中学校	会津坂下町字惣六83番地	26	●	○	×	○	●	○	避難場所はグラウンド 避難所は施設内
4	旧坂下高等学校	会津坂下町大字白狐字古川甲1090番地	26	●	○	○	○	●	×	避難場所はグラウンド 避難所は施設内
5	会津農林高等学校	会津坂下町字曲田1391番地	26・27	●	○	○	○	●	○	避難場所はグラウンド 避難所は施設内
6	中央公民館	会津坂下町字五反田1310番地の3	26		○	×	○	●	○	
7	若宮コミュニティセンター	会津坂下町大字牛川字寿ノ宮1890番地	32	●	○	○	○	●	○	避難場所はグラウンド 避難所は施設内 (付属体育館含む)
8	金上コミュニティセンター	会津坂下町大字福原字家東59番地	27・33		○	×	○	●	○	
9	子育てふれあい交流センター	会津坂下町大字福原字福川原913番地	27・33	●	○	×	○	●	○	避難場所はグラウンド 避難所は施設内 (金上コミュニティセンター付属体育館含む)
10	広瀬コミュニティセンター	会津坂下町大字青木字青木139番地	21	●	○	×	○	●	○	避難場所はグラウンド 避難所は施設内 (附属体育館含む)
11	川西コミュニティセンター	会津坂下町大字大上字柳ノ下甲312番地	20	●	○	×	○	●	○	避難場所はグラウンド 避難所は施設内 (附属体育館含む)
12	農村環境改善センター	会津坂下町大字見明字堤帰2115番地	20		○	○	×	●	×	
13	八幡コミュニティセンター	会津坂下町大字塔寺字北原787番地	26	●	○	○	○	●	○	避難場所はグラウンド 避難所は施設内 (附属体育館含む)
14	旧坂本分校	会津坂下町大字坂本字宮前甲940番地の2	24	●	○	○	×	●	×	避難場所は施設前広場 避難所は施設内
15	高寺コミュニティセンター	会津坂下町大字片門字宮ノ下1900番地	24	●	○	×	○	●	○	避難場所はグラウンド 避難所は施設内 (附属体育館含む)
16	束松振興センター	会津坂下町大字束松字諏訪田丙304番地1	24		○	○	○	●	×	
17	台ノ宮公園	会津坂下町字台ノ下地内	27	●	○	×	○			
18	諏訪公園	会津坂下町字中岩田地内	26	●	○	×	○			
19	緑町公園	会津坂下町字上口地内	27	●	○	×	○			
20	桜ヶ丘公園	会津坂下町字館ノ内地内	26	●	○	×	○			
21	坂下中央公園	会津坂下町字西南町裏地内	26	●	○	×	○			
22	稻荷塚公園	会津坂下町字稻荷塚地内	26	●	○	×	○			
23	ステーションばんげ南公園	会津坂下町字石田地内	26	●	○	×	○			
24	牛沢公園	会津坂下町大字牛川字中島地内	32	●	○	○	○			
25	福原公園	会津坂下町大字福原字町尻地内	27・33	●	○	×	○			
26	花ちゃん公園	会津坂下町大字青木字宮田地内	21	●	○	×	○			
27	川西公園	会津坂下町大字八日沢字館ノ内地内	20	●	○	×	○			
28	塔寺山いこいの森公園	会津坂下町大字塔寺字姥ヶ懐地内	25	●	○	○	○			
29	ばんげびがし公園	会津坂下町大字福原字殿田98番地	27	●	○	×	○			

会津坂下町 全図

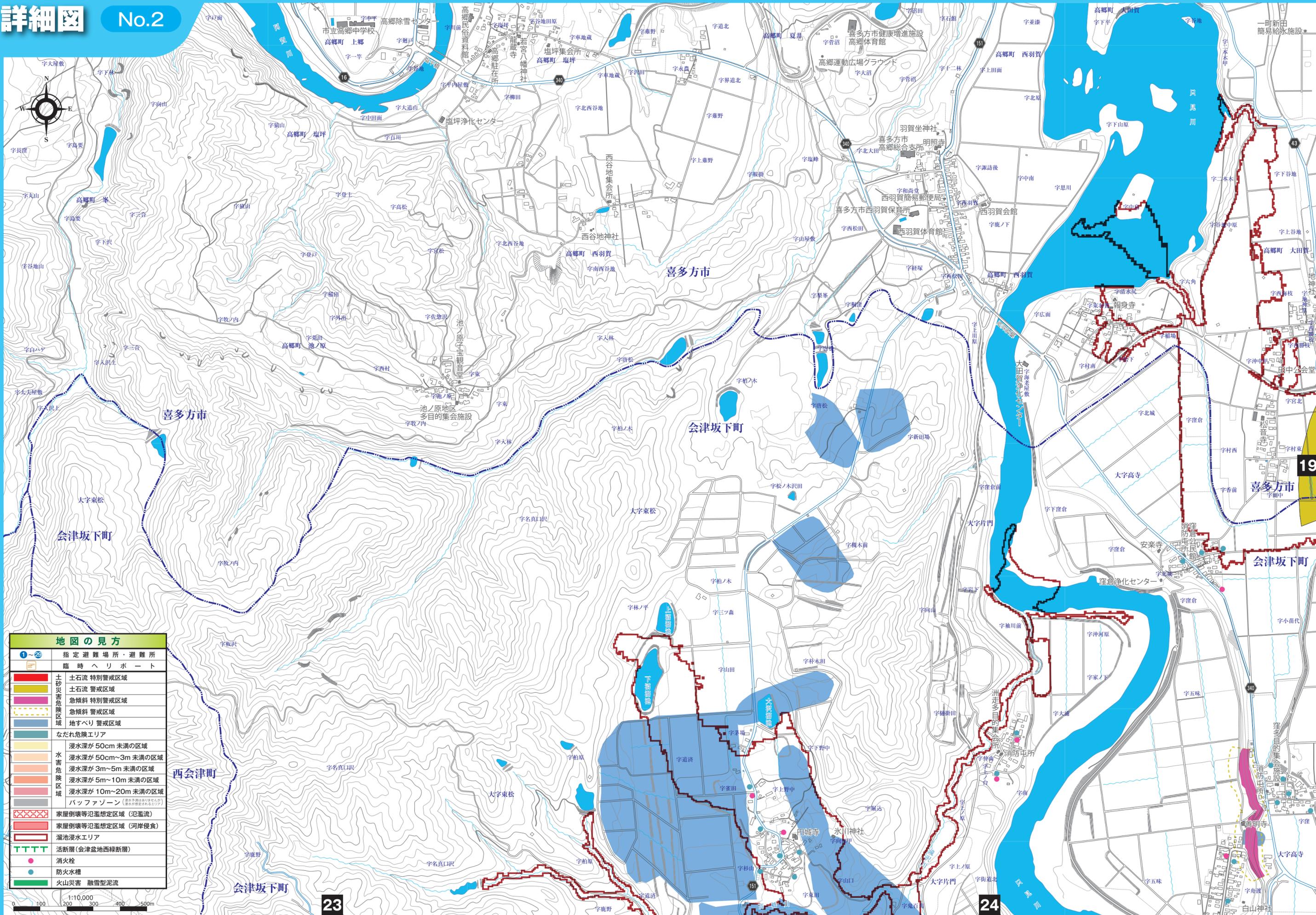


【測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R2JHs 293-1204号】

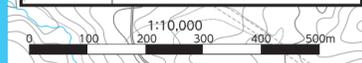


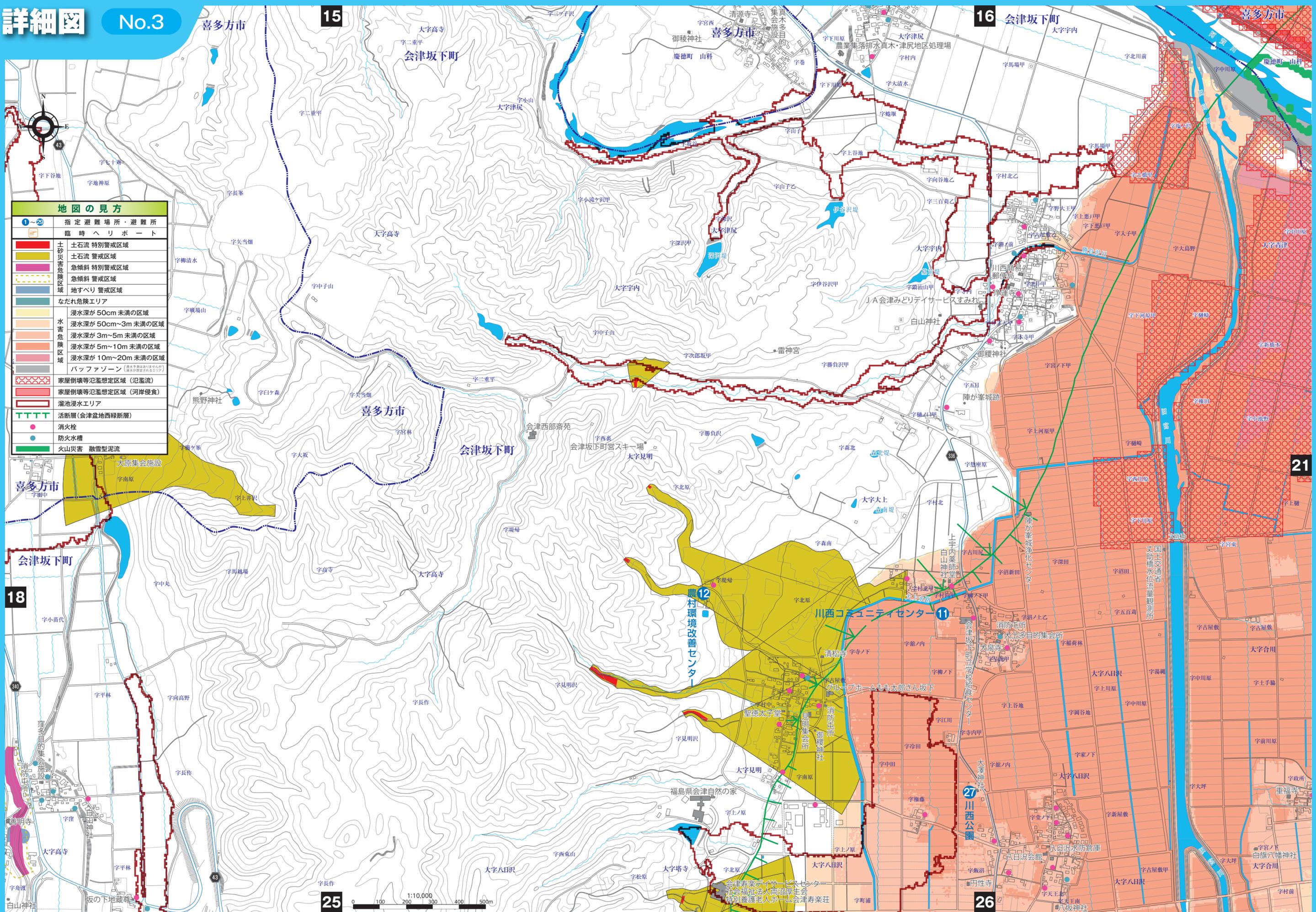
地図の見方	
	指定避難場所・避難所
	臨時ヘリポート
	土石流 特別警戒区域
	土石流 警戒区域
	急傾斜 特別警戒区域
	急傾斜 警戒区域
	地すべり 警戒区域
	なだれ危険エリア
	浸水深が50cm未満の区域
	浸水深が50cm~3m未満の区域
	浸水深が3m~5m未満の区域
	浸水深が5m~10m未満の区域
	浸水深が10m~20m未満の区域
	バッファゾーン (浸水深はあきまてんが (浸水深想定されるエリア))
	家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)
	家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食)
	溜池浸水エリア
	活断層 (会津盆地西線断層)
	消火栓
	防火水槽
	火山災害 融雪型泥流





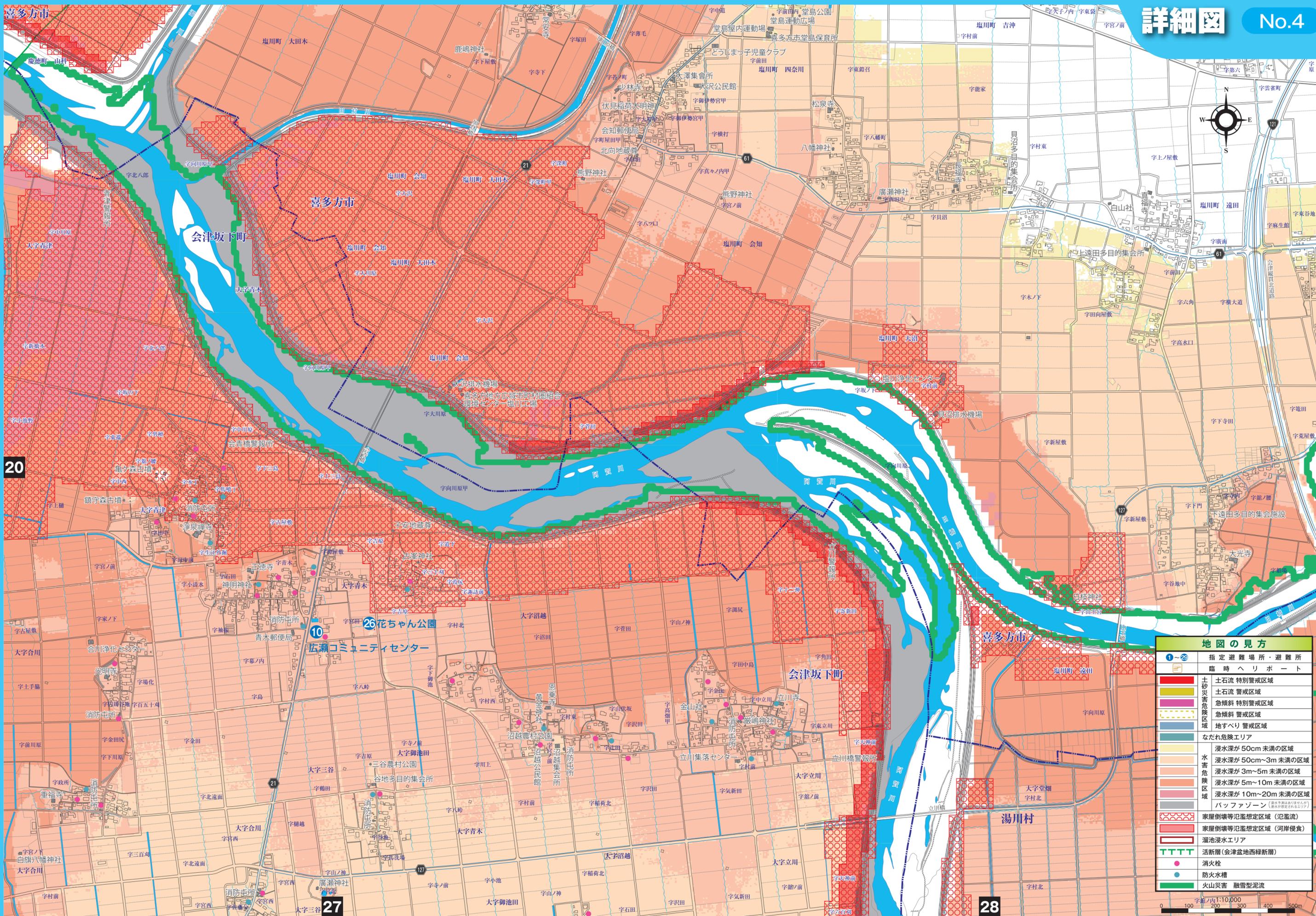
地図の見方	
	指定避難場所・避難所
	臨時ヘリポート
	土石流 特別警戒区域
	土石流 警戒区域
	急傾斜 特別警戒区域
	急傾斜 警戒区域
	地すべり 警戒区域
	なだれ危険エリア
	浸水深が50cm未満の区域
	浸水深が50cm~3m未満の区域
	浸水深が3m~5m未満の区域
	浸水深が5m~10m未満の区域
	浸水深が10m~20m未満の区域
	バッファゾーン (浸水予測はありますが、浸水が想定されるエリア)
	家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)
	家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食)
	溜池浸水エリア
	活断層 (会津盆地西縁断層)
	消火栓
	防火水槽
	火山災害 融雪型泥流





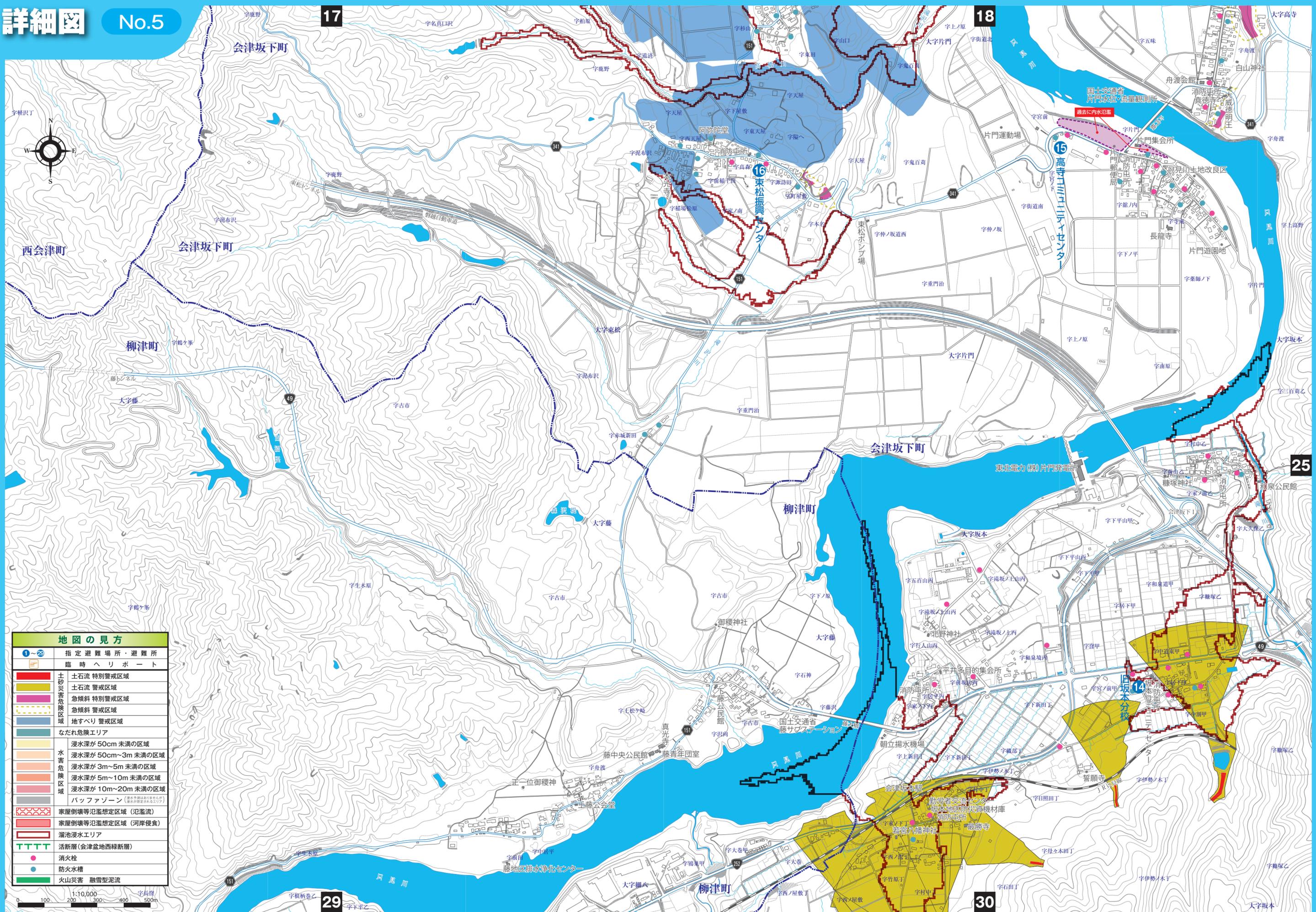
地図の見方	
	指定避難場所・避難所
	臨時ヘリポート
	土石流 特別警戒区域
	土石流 警戒区域
	急傾斜 特別警戒区域
	急傾斜 警戒区域
	地すべり 警戒区域
	なだれ危険エリア
	浸水深が50cm未満の区域
	浸水深が50cm~3m未満の区域
	浸水深が3m~5m未満の区域
	浸水深が5m~10m未満の区域
	浸水深が10m~20m未満の区域
	バッファゾーン(浸水想定区域外に居住する人の安全確保を目的とする)
	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)
	溜池浸水エリア
	活断層(会津盆地西縁断層)
	消火栓
	防火水槽
	火山災害 融雪型泥流

1:1,000 0 100 200 300 400 500m

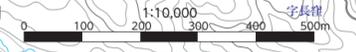


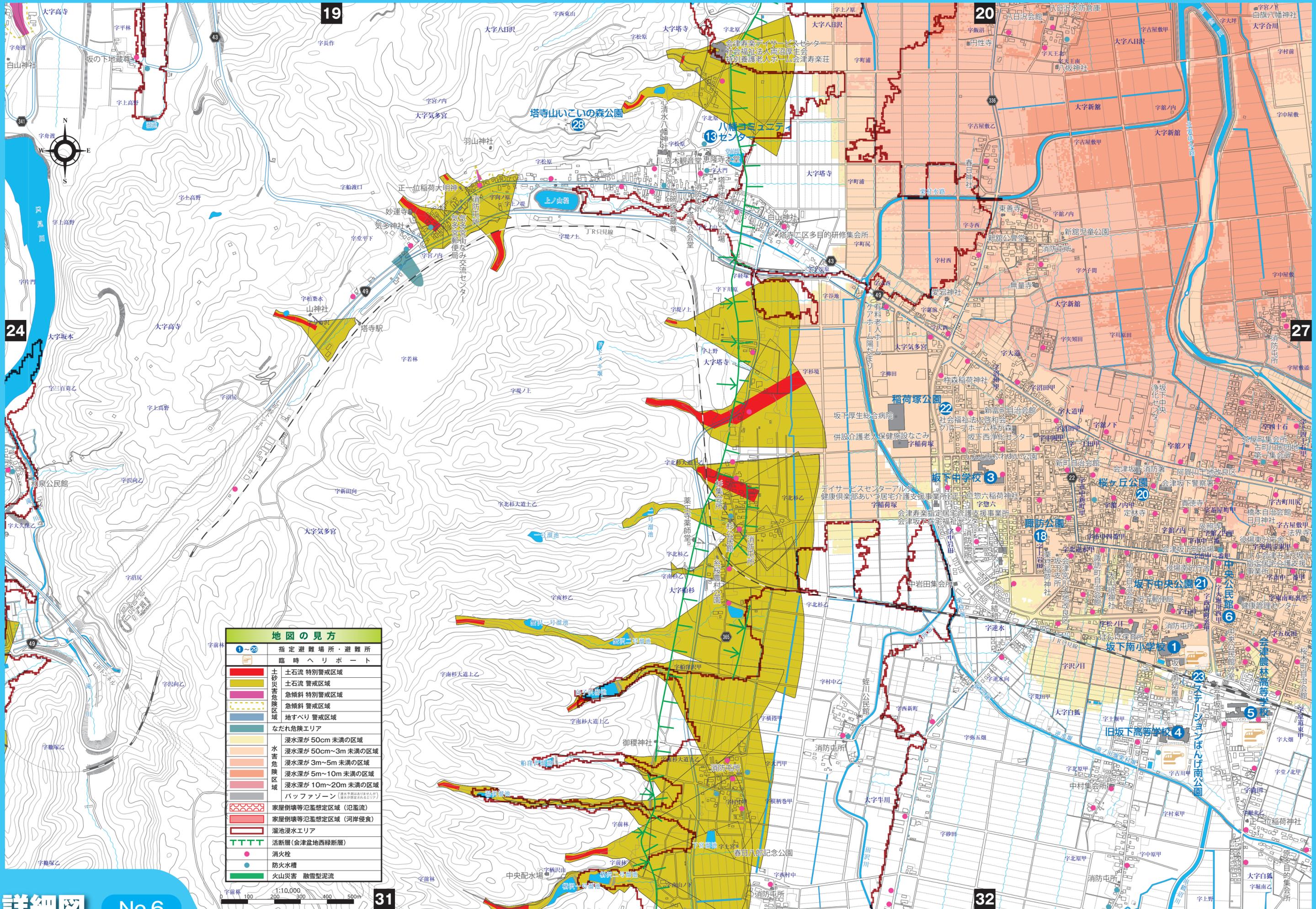
地図の見方	
①~②③	指定避難場所・避難所
🚒	臨時ヘリポート
🔴	土石流 特別警戒区域
🟡	土石流 警戒区域
🟠	急傾斜 特別警戒区域
🟡	急傾斜 警戒区域
🟢	地すべり 警戒区域
🟢	なだれ危険エリア
🟡	浸水深が50cm未満の区域
🟠	浸水深が50cm~3m未満の区域
🟡	浸水深が3m~5m未満の区域
🟠	浸水深が5m~10m未満の区域
🔴	浸水深が10m~20m未満の区域
🟡	バッファゾーン(浸水予測境界線)
🔴	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
🔴	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)
🟡	溜池浸水エリア
TTTT	活断層(会津盆地西縁断層)
🔴	消火栓
🟡	防火水槽
🟢	火山災害 融雪型泥流

0 100 200 300 400 500m
 縮尺 1:10,000

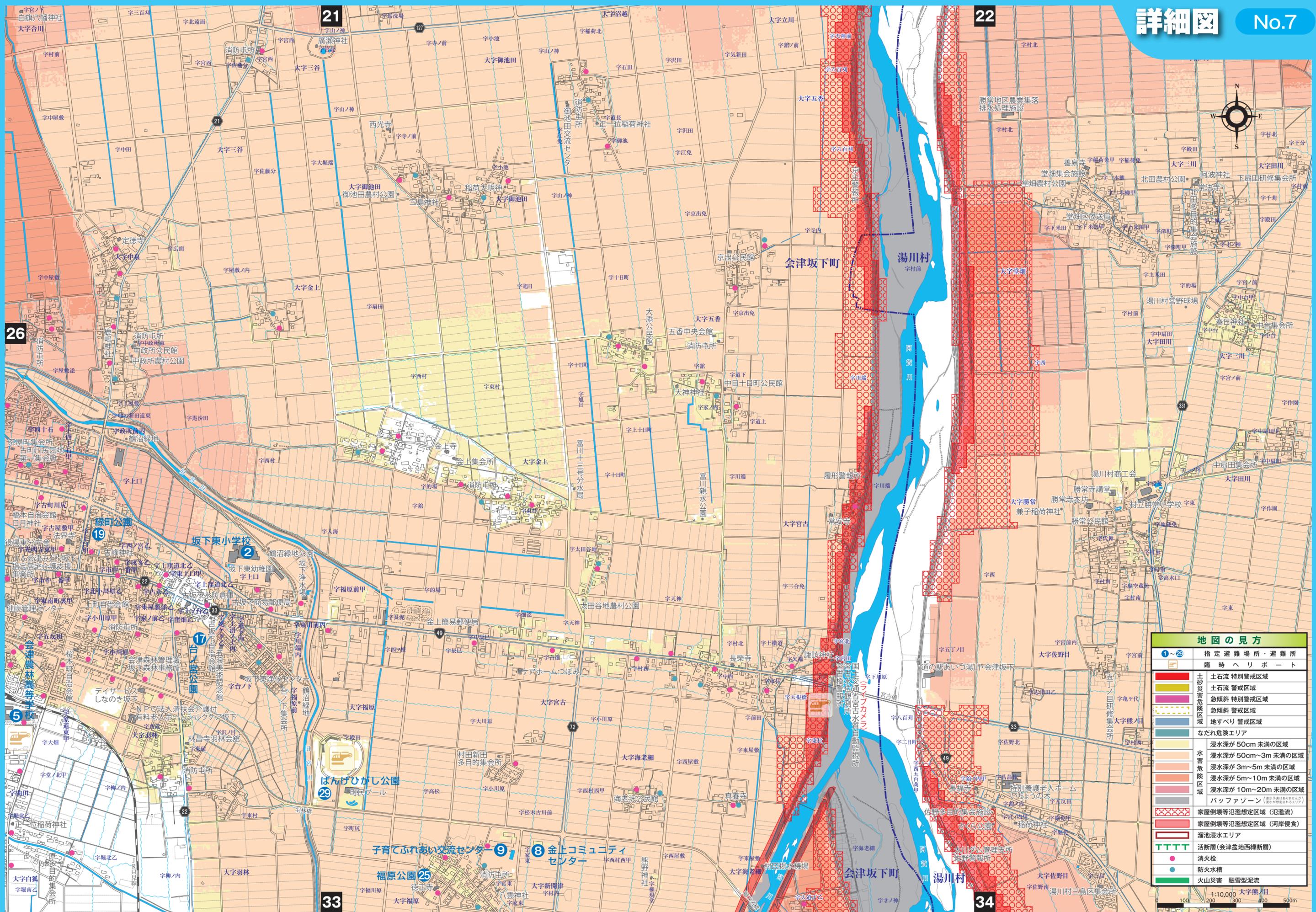


地図の見方	
①~⑭	指定避難場所・避難所
🚒	臨時ヘリポート
🔴	土石流 特別警戒区域
🟡	土石流 警戒区域
🟠	急傾斜 特別警戒区域
🟡	急傾斜 警戒区域
🟢	地すべり 警戒区域
🟡	なだれ危険エリア
🟡	浸水深が50cm未満の区域
🟠	浸水深が50cm~3m未満の区域
🔴	浸水深が3m~5m未満の区域
🟠	浸水深が5m~10m未満の区域
🔴	浸水深が10m~20m未満の区域
🟡	バッファゾーン (浸水予測はありませんが、浸水が想定されるエリア)
🔴	家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)
🔴	家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食)
🟡	溜池浸水エリア
TTT	活断層 (会津盆地西線断層)
🔴	消火栓
🟡	防火水槽
🟢	火山災害 融雪型泥流



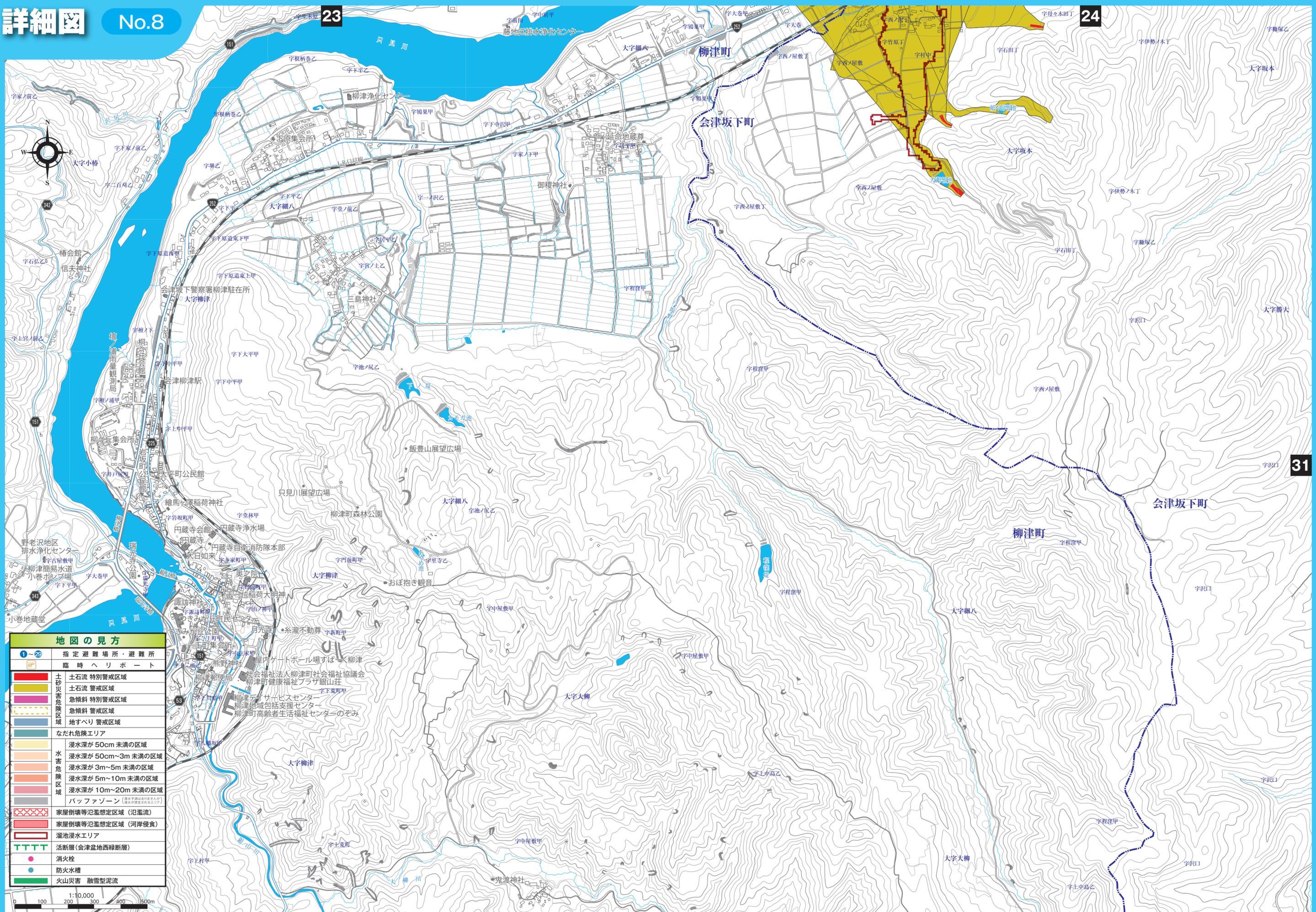


地図の見方	
①~⑩	指定避難場所・避難所
🚒	臨時ヘリポート
🔴	土石流 特別警戒区域
🟡	土石流 警戒区域
🟠	急傾斜 特別警戒区域
🟡	急傾斜 警戒区域
🔵	地すべり 警戒区域
🟢	なだれ危険エリア
🟡	浸水深が50cm未満の区域
🟠	浸水深が50cm~3m未満の区域
🔴	浸水深が3m~5m未満の区域
🟠	浸水深が5m~10m未満の区域
🔴	浸水深が10m~20m未満の区域
🟡	バッファゾーン
🏠	家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)
🏠	家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食)
🟡	溜池浸水エリア
TTT	活断層 (会津盆地西線断層)
🔴	消火栓
🟢	防火水槽
🟢	火山災害 融雪型泥流



地図の見方

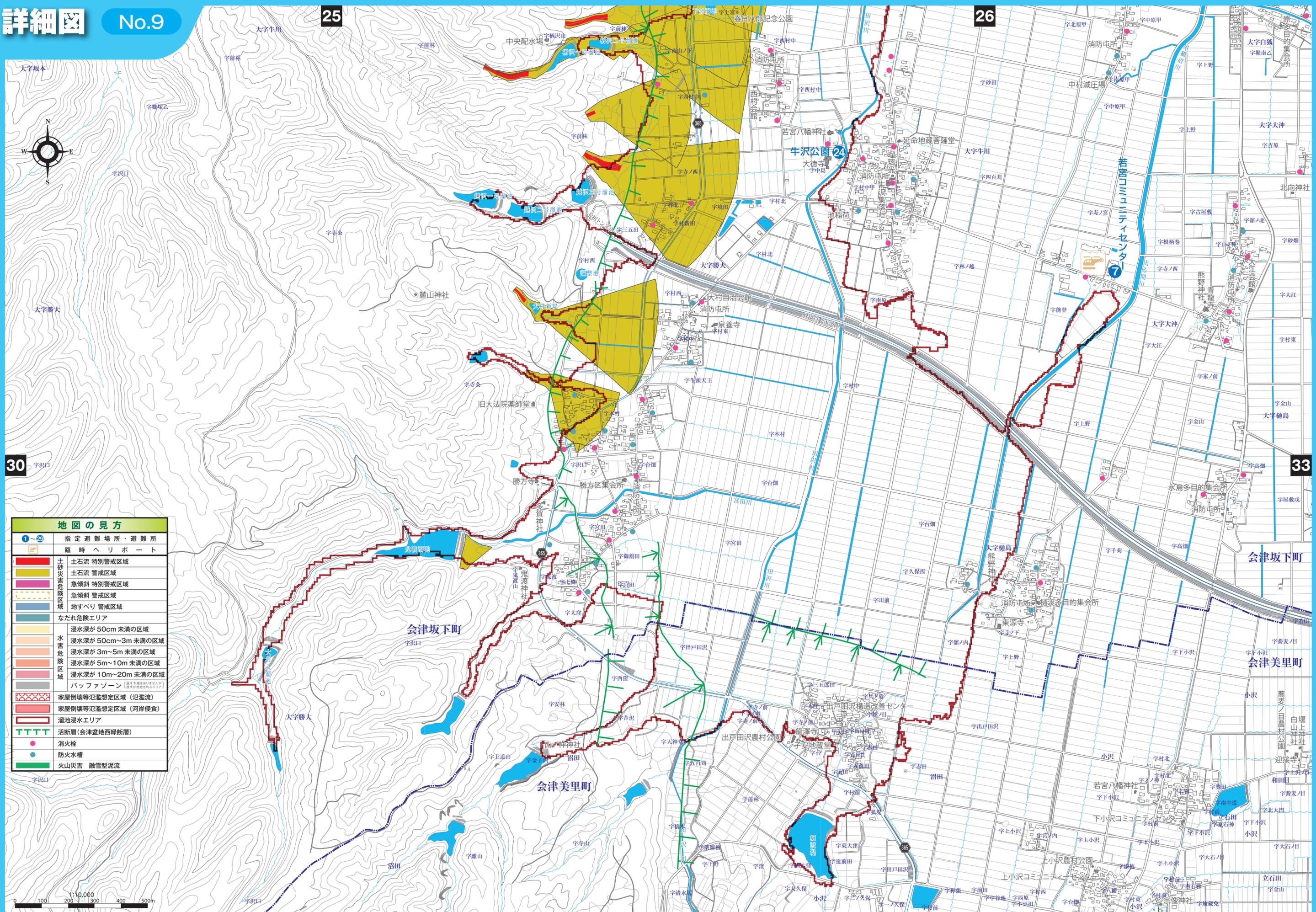
①~⑭	指定避難場所・避難所
臨時ヘリポート	
土砂災害特別警戒区域	土石流 特別警戒区域
土砂災害警戒区域	土石流 警戒区域
急傾斜特別警戒区域	急傾斜 特別警戒区域
急傾斜警戒区域	急傾斜 警戒区域
地すべり警戒区域	地すべり 警戒区域
なだれ危険エリア	なだれ危険エリア
浸水深が50cm未満の区域	浸水深が50cm未満の区域
浸水深が50cm~3m未満の区域	浸水深が50cm~3m未満の区域
浸水深が3m~5m未満の区域	浸水深が3m~5m未満の区域
浸水深が5m~10m未満の区域	浸水深が5m~10m未満の区域
浸水深が10m~20m未満の区域	浸水深が10m~20m未満の区域
ハッパゾーン	ハッパゾーン
家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)
溜池浸水エリア	溜池浸水エリア
TTTT	活断層(会津地西線断層)
●	消火栓
●	防火水槽
■	火山災害 融雪型泥流



地図の見方

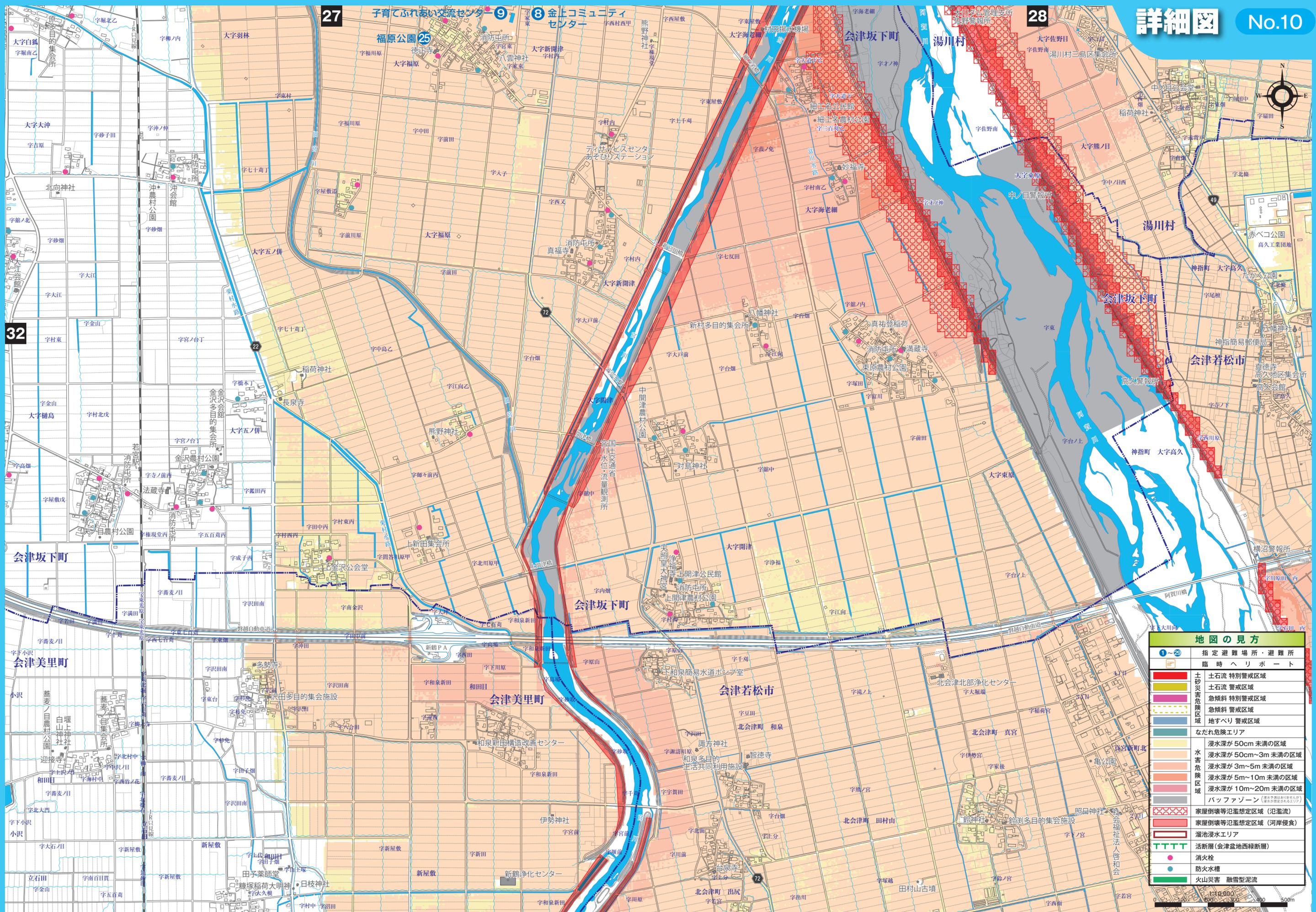
	指定避難場所・避難所
	臨時ヘリポート
	土石流 特別警戒区域
	土石流 警戒区域
	急傾斜 特別警戒区域
	急傾斜 警戒区域
	地すべり 警戒区域
	なだれ危険エリア
	浸水深が 50cm 未満の区域
	浸水深が 50cm~3m 未満の区域
	浸水深が 3m~5m 未満の区域
	浸水深が 5m~10m 未満の区域
	浸水深が 10m~20m 未満の区域
	バッファゾーン (浸水予測はありませんが、浸水の想定されるエリア)
	家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)
	家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食)
	溜池浸水エリア
	活断層 (会津盆地西縁断層)
	消火栓
	防火水槽
	火山災害 融雪型泥流

0 100 200 300 400 500m
1:10,000



地図の見方	
①~②	指定避難場所・避難所
🚁	臨時ヘリポート
🔴	土石流 特別警戒区域
🟡	土石流 警戒区域
🟠	急傾斜 特別警戒区域
🟡	急傾斜 警戒区域
🟢	地すべり 警戒区域
🟡	なだれ危険エリア
🟡	浸水深が50cm未満の区域
🟠	浸水深が50cm~3m未満の区域
🟡	浸水深が3m~5m未満の区域
🟠	浸水深が5m~10m未満の区域
🔴	浸水深が10m~20m未満の区域
🟡	バッファゾーン (浸水想定区域の周辺)
🔴	家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)
🔴	家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食)
🔴	溜池浸水エリア
TTTT	活断層 (会津盆地西線断層)
🔴	消火栓
🔵	防火水槽
🟢	火山災害 融雪型泥流





地図の見方

①~②⑤	指定避難場所・避難所
🚗	臨時ヘリポート
🔴	土石流 特別警戒区域
🟡	土石流 警戒区域
🟠	急傾斜 特別警戒区域
🟡	急傾斜 警戒区域
🟢	地すべり 警戒区域
🟡	なだれ危険エリア
🟡	浸水深が50cm未満の区域
🟠	浸水深が50cm~3m未満の区域
🔴	浸水深が3m~5m未満の区域
🟠	浸水深が5m~10m未満の区域
🔴	浸水深が10m~20m未満の区域
🟡	パツファゾーン (浸水深が想定される人が浸水が想定されるエリア)
🔴	家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)
🔴	家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食)
🟡	溜池浸水エリア
🟢	活断層 (会津盆地西縁断層)
🔴	消火栓
🔴	防火水槽
🟢	火山災害 融雪型泥流

災害に適した冷静な行動があなたの命を救います

インターネットを利用したリアルタイム情報提供

令和3年3月より、大雨・洪水警報の危険度分布情報サイトが発信されました。『危機（キキ）』が『来る（クル）』のを一目で確認できる、愛称『キキクル』が活躍しています。
その他、国や県では河川情報を提供しています。日頃からアクセスし扱いに慣れるようにしてください。

キキクル

- ・パソコン、スマートフォンから

<https://www.jma.go.jp/bosai>

[#area_type=class20s&area_code=0748100&pattern=rain_level](https://www.jma.go.jp/bosai/#area_type=class20s&area_code=0748100&pattern=rain_level)



国土交通省「川の防災情報」

- ・パソコンから <https://www.river.go.jp/>
- ・スマートフォンから <https://river.go.jp/s/>



福島県「河川流域総合情報システム」

- ・パソコン、スマートフォンから

<https://kaseninf.pref.fukushima.jp/gis/>



本書の使い方

本書は、いつ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、常日頃から内容に目を通し理解を深めておきましょう。

本書は、災害時に持ち運びができるように冊子型として作成しました。通常時は、壁などにピン留めして掲示するか、ヒモなどでつるし身近に置き、緊急時に持ち出してご活用ください。

発行：会津坂下町（問い合わせ：総務課 危機管理班 0242-84-1533）

<https://www.town.aizubange.fukushima.jp/>

制作・著者：株式会社ゼンリン 郡山営業所

作成：令和5年2月